



東山道 伊王野 史跡MAP

制作：那須歴史探訪館
☎0287-74-7007

1 追分の明神(おいわけのみょうじん)
旧東山道の関東最北端追分地区にあり、福島県白河市と境をなす峠上にある。かつては両県にまたがって二つの社があったと言われているが、現在は関東側だけとなった。
古い歴史をもつ峠神であり、延暦10年(791)に坂上田村麻呂が勧請したと伝えられている。
義経伝説 義経は祖である源頼義にちなんで、この神社で鎌倉への無事と戦勝を祈願した。

5 矢の根石(やのねいし)
「矢の根石」と書かれた案内看板があるが、石は道路改修のとき地中に埋められてしまった。平成24年に道路の反対側に復元された。
義経伝説 ここで弁慶は矢を取り出し、「わが願い吉ならば、この石に立てよ」と、傍らにあった岩に矢の根を指先にて押し込めば、あら不思議、矢が岩に突き刺さったではないか。

6 沓石(くついし)
義経伝説 橋を渡った道路沿いに大きな岩が横たわっている。この岩の中ほどに蹄の形の窪みがある。これが、義経の愛馬の足跡と伝えられている。

9 二岐ヶ峰城跡(ふたぎがみねじょうあと)
三蔵川と大ヶ谷方面から流れる木下川の合流点に囲まれた高台にある。地域の人々は要害山と呼んでいる通り、戦乱時の拠点にふさわしい山城である。戦国時代末からは三野沢氏がこの城の主となった。

11 御幣石神社(おんべしじんじや)
義経伝説 岩山の上に登ってみると小さな石祠があり、周りには大きな石がゴロゴロしていた。下の畑には、ここから落ちた大きな石が転がっており、ここに義経が腰を掛けた「義経の腰掛石」と呼ばれる石があるが、どの石かわからない。

12 三森家住宅(みもりけじゅうたく)
主屋は茅葺き平屋の寄棟造りで、間口約22m、奥行き約10mある。主屋前面には長屋門があり、いずれも国の重要文化財に指定されている。

15 判官清水(ほうがんしみず)
義経伝説 義経の愛馬が足を骨折したとき、こんこんと湧き出る清水で足を冷やした。里人はこれを「ホーガン清水」と呼んでいる。ホーガンとは「九郎判官義経」のことである。

16 何耕地縄文式遺跡
(いずこうちじょうもんしきいせき)
何耕地といわれる小高い丘陵にある。面積は約4haあり、縄文時代中期前半の大遺跡である。石器や土器片など多くの遺物が出土している。

18 伊王野温泉神社(いおうのおんせんじんじや)
創立は和銅2年(709)、現在地に鎮座したのは大同2年(807)、後に伊王野資長が仁治2年(1241)に社殿を建立したと伝えられている。参道には、伊王野氏によって植栽奉納されたといわれる杉並木があり、本殿前に2本の大杉がある。

19 長源寺(ちょうげんじ)
室町時代後期の弘治元年(1555)に、当時の領主伊王野資直が中興開基となり、寺基を現在地に遷し寺号を長源寺に改称した。
曹洞宗の寺院で、資直以降の伊王野氏の菩提寺であり、伊王野氏一族の墓がある。
五輪塔4基と自然石碑3基が残っており、「伊王野氏新墳墓」として那須町指定史跡に指定されている。

20 馬頭観音堂(ばとうかんのんどう)
義経伝説 義経の愛馬の怪我を治癒したと伝えられている霊験ある馬頭観音を祀っている。

21 伊王野城跡(いおうのじょうあと)
伊王野町並の北の背後に位置し、「霞ヶ城」の別名もあり、地元では「城山」とも呼んでいる。室町時代後期からおよそ150年間にわたって伊王野氏歴代の居館であった。

22 正福寺(しょうふくじ)
真言宗智山派の寺院で、同寺の宝物としては、室町時代初期の応永6年(1399)に制作された青銅製の鰐口(栃木県指定文化財)、弘法大師画像・五大力菩薩画像(いずれも那須町指定文化財)がある。

23 伊王野氏居館跡(いおうのしきよかんあと)
伊王野谷の最も広い所に位置し、当時の主街道の一つである東山道沿いにある。(旧伊王野小学校の校地)
室町時代後期に後背地の山城に移った。

24 道路元標(どうろげんぴょう)
道路元標は、大正8年11月5日付け勅令第460号の「道路法施行令」により、「市町村二1個ヲ置ク」と定められた。
現在は伊王野小学校前交通信号機の東側に移設されているが、当初は旧伊王野村役場直近の旧警察官駐在所前に設置された。

25 専称寺(せんしょうじ)
時宗の寺院で、鎌倉時代の延応元年(1239)に、伊王野次郎資長が伊王野の地に配された際に創建された伊王野氏歴代の菩提寺であり、境内には伊王野氏の旧墳墓がある。
本尊の金銅阿彌陀如来立像は、文永4年(1267)に伊王野次郎資長が願主となり、佛師藤原光高が制作したもので、国指定重要文化財に指定されている。脇侍の金銅勢至菩薩立像は、栃木県指定文化財に指定されている。

26 行人塚遺跡(ぎょうにんづかいせき)
三蔵橋上の小高い丘にあり、南向きの緩やかな斜面で、約1haにわたって遺物が発見されている。縄文前期の遺跡で、遺物は多種・多様にわたっている。

27 まつり伝承館(まつりでんしょうかん)
道の駅東山道伊王野内にあり、伊王野温泉神社の祭礼で、おはやしを乗せて引き回す屋台(上町と下町の2台)を常設展示している。毎年11月2、3日の伊王野秋祭りで、この2台の山車が町内を練り歩く。

28 北向き地藏(きたむきじぞう)
昔、出羽国米沢をめざして旅をする親子が行き倒れになり、この親子を弔うために建てられたという民話がある。お地藏様の向いている方向が北のため「北向き地藏」と呼んでいる。

29 堂平仏堂跡(どうだいらぶつどうあと)
大正末期、この地を開墾した際、地下60cmから整然と礎石が配置された遺構が発見され、須弥壇跡と思われる地点から金銅薬師如来座像が出土した。さらに昭和13年、ここより西の丘陵中腹の茶畑から、百濟様式の銅製誕生釈迦立像が出土した。大陸文化とのつながりを示す貴重な遺跡である。

30 堂の下の岩観音(どうのしたのいわかんのん)
かつての芦野石の採掘所で、岩肌が露出した中腹に観音堂がある。堂の周辺にはエドヒガンやソメイヨシノの巨木・古木が生い茂っている。

31 弁慶石(べんけいいし)
昭和初期まで現存していたが、道路の拡張工事に伴い撤去された。義経伝説を後世に残すため、平成23年に復元された。
義経伝説 弁慶が道の傍らの大きな石を指さし、「那須山で修行した時、下駄に挟まった石を取ろうと蹴ったらここまで飛んできた」と話したという。

32 梁瀬城跡(やなせじょうあと)
那須与一宗隆の兄三郎幹隆を始祖とする芋淵氏の後裔梁瀬氏によって築かれた。

33 落合の海棲動物化石層
(おちあいのかいせいどうぶつかせきそう)
余笹川と黒川の合流点の河川敷地内にある。この化石層は、新生代第三紀中新世以降(2,500万年前)のもので、暖海性の貝類の化石が多くみられる。

37 稲沢氏居館跡(いなざわしきよかんあと)
鎌倉時代に、稲沢五郎資家に始まる稲沢氏一族の居館跡である。五郎資家は伊王野氏の祖である次郎資長の弟である。

38 ハッケトンヤ縄文式遺跡・舟戸古墳群
(-じょうもんしきいせき・ふなごふんぐん)
縄文時代中期(約5,000年前)以降の那須町を代表する遺跡で、石器や土器片が多数発見された。「ハッケトンヤ」とは地名で、「急な崖の上の小屋」を意味する古語である。
ハッケトンヤ遺跡の下方、那珂川の河岸段丘上に船戸古墳群がある。帆立貝式の前方後円墳が1つと円墳が2つ、やや小型の円墳が2つ確認されている。

ようこそ伊王野へ

伊王野は限られた谷あいの地形にして、奥州と関東の境に位置する政治的・軍事的な重要地点であったと考えられます。古くよりこの地で人々が生きてきた痕跡が残る一方、都とみちのくを結ぶ幹線道路(東山道)が通り、豊かな自然と語り継がれてきた伝説が息づく里です。